

並行する警告 - 第3号

預言的メッセージの強化：黙示録の天使たちによる段階的な検証プロセス

Jeff Pippenger

2023-08-08

前回の記事は、黙示録14章の三人の天使はいずれも手にメッセージを携えていることを確認して締めくくった。第二と第三の天使は、自らのメッセージとともに降りて来る際に「羊皮紙」を持っていると示されている。それぞれの天使は一つのメッセージを表し、そのメッセージの到来は何らかの影響をもたらす。第一の天使は1798年に到来した。そのメッセージは封印が解かれ、差し迫ったさばきに関する知識が増し加わった。その知識の増し加わりによって、礼拝者は二つの階級に分かれた。第二の天使が到来したとき、プロテスタントの墮落のメッセージが封印を解かれ、知識が増し加わり、二つの階級が生じた。1844年10月22日に「真夜中の叫び」のメッセージが到来したとき、それはエクセターのキャンプ・ミーティングで封印が解かれ、知識が増し加わり、二つの階級の乙女が生じた。1844年10月22日に第三の天使が到来したとき、第三の天使のメッセージとそれが表すすべてが封印を解かれ、知識が増し加わり、二つの階級が生じた。

天使たちに見いだされるもう一つの特徴は、天使のメッセージが力を得ることに関係している。前の記事が示したように、第二の天使のメッセージは真夜中の叫びのメッセージによって力づけられた。しかし、真夜中の叫びは単一の天使によって表されているのではなく、多くの天使によって表されている。第二の天使と真夜中の叫びに対応する歴史は、真夜中の叫びがそれに加わったとき、第二の天使のメッセージが力づけられたことを示している。同じ書物で、次のように述べられている：

私は天で天使たちがあわただしくあちこちに行き交うのを見た。彼らは地上に降り、また天に上り、何か重要な出来事の成就のために備えていた。それから私は、別の力ある天使が地上に降りるよう任じられ、第三の天使と声を合わせ、そのメッセージに力と勢いを与えるのを見た。大いなる力と栄光がその天使に授けられ、彼が降りるにつれて、地はその栄光によって照らされた。この天使の前を行き後に従う光は、彼が力強く大声でこう叫んだとき、至る所にまで行き渡った。「大バビロンは倒れた、倒れた。悪霊の住まいとなり、あらゆる汚れた霊の巣窟となり、すべての汚れた憎むべき鳥の檻となった。」第二の天使によって告げられたバビロン陥落のメッセージは、1844年以来教会に入り込んできた腐敗を付け加えて、再び告げられた。この天使の働きは時にかなって現れ、第三の天使のメッセージが「大いなる叫び」となって高まっていく最後の大いなる働きに加わる。そして神の民は、まもなく直面する試練の時に立つことができるよう、至る所で整えられた。私は大いなる光が彼らの上にとどまっているのを見た。彼らはそのメッセージに一致し、恐れなく大いなる力をもって第三の天使のメッセージを宣べ伝えた。

天から来た力ある御使いを助けるために御使いたちが遣わされた。そして私は、至る所で響いているかのような声を聞いた——「わたしの民よ、彼女から出て来なさい。彼女の罪にあずからず、また彼女の災いを受けないためである。なぜなら、彼女の罪は天にまで達し、神は彼女の不義を覚えておられるからである。」このメッセージは

第三のメッセージへの付加のように見え、1844年に真夜中の叫びが第二の御使いのメッセージに結びついたのと同様に、それと結び合わさった。忍耐して待ち望む聖徒たちの上に神の栄光がとどまり、彼らは恐れることなく最後の厳粛な警告を発した。すなわち、バビロンの倒壊を宣言し、神の民に彼女から出て来るよう呼びかけたのである。それは、彼らが彼女の恐るべき破滅を免れるためであった。『Spiritual Gifts』第1巻、193、194頁。

真夜中の叫びは第二の天使に加わり、黙示録18章の天使は第三の天使に加わる。そして彼が第三の天使に加わるとき、それはアドベンチズムの初めにおける真夜中の叫びと第二の天使の結合の繰り返しである。第二と第三の天使という二人の証人に基づけば、すべての天使のメッセージには、それに力を与える第二のメッセージがある。この二人の証人は、第一の天使のメッセージが歴史の中に到来したとき、その後のある時点でそのメッセージが第二のメッセージによって力づけられなければならなかったことを教えている。これはもちろん第一の天使についても真実であった。先に示した長文の最初の段落で、ホワイト夫人は「彼の使命は、その栄光によって地を照らし、人々に迫り来る神の怒りを警告することであると、私は告げられた」と述べ、ヨハネが黙示録18章の天使に与えているのと同じ特質を第一の天使に認めている。その箇所では、彼女が第一の天使を指していることは明らかである。

第一の天使のメッセージは1798年に到来し、その後、オスマン帝国の覇権が終焉した1840年8月11日に力を受けた。その時、黙示録10章の力ある天使が天から下り、片足を陸に、もう片足を海に置いた。彼は第一の天使が力を受けたことを表しており、これが、第一の天使の働きが黙示録18章の天使の働きと同じであることを示している。両者はその栄光によって地を照らすはずであったが、黙示録18章の天使は第三の天使に加わる。ちょうど真夜中の叫びが第二の天使に加わったのと同様に、また、黙示録10章で下ってきた天使が第一の天使に加わったのと同様である。

それゆえ、第一の天使が到来したとき、封印が解かれたメッセージがあり、それによって礼拝者は二つの種類に分かれた。第一の天使のメッセージが黙示録10章の天使によって強められたとき、彼は手に小さな書物を持っており、それをヨハネに食べるよう命じた。そのことは、彼がメッセージを携えて来てそれを封印から解き、その結果、礼拝者が二つの種類に分かれたことを示していた。第二の天使、真夜中の叫び、そして第三の天使が到来したとき、封印が解かれたメッセージがあり、それが礼拝者を試し、二つの種類に分けた。

私たちが取り上げている箇所は、キリストの歴史をミラー派の歴史と比較することによって、ミラー派の歴史で起こった段階的な試練の過程が、古代イスラエルの終わりであったキリストの時代にも起こったことを強調している。もし段階的な試練の過程が霊的イスラエルの初めと古代イスラエルの終わりに起こったのなら、古代イスラエルの初めにあったように、霊的イスラエルの終わりにも段階的な試練の過程があるだろう。

ミラライトの歴史では、これは1798年から1844年10月22日までに、礼拝者を試し二種類に分けた五度にわたる封印の解明を表している。この箇所は明確に教えている。ある試練に落ちれば、次の試練にも合格できない。なぜなら、そもそもそれに取り組もうともしな

いからだ。また、キリストの時代には、その試練の過程が、かつて選ばれた契約の民が救いの計画について全くの暗闇の中に置かれることで終結したことも明らかである。ダニエルとヨハネは、背後からの声に耳を傾け、解かれた新しい真理の一つひとつを個人的に吟味することを求められる段階的な試練の過程を通過した人々を代表している。

ダニエル書とヨハネの黙示録は一つの書物であり、ダニエルとヨハネはその一つの書物の二人の証人である。一人の証人はその書物の始まりであり、もう一人の証人はその書物の終わりである。両方の証人は象徴的に死と復活を経験した。一方はメド・ペルシャ王国（アメリカ合衆国を象徴する）によって迫害され、もう一方はローマ（教皇権を象徴する）によって迫害された。ヨハネは安息日を守る者であるために迫害されており、礼拝の慣行を変えることを拒んだために迫害されたダニエルと同様である。彼らは共に、世の終わりに、第七日安息日に代えて日曜日の礼拝を受け入れることを拒むために迫害される人々を象徴している。

ダニエルとヨハネによって代表される人々は、過去にも、そしてこれからも、印を受ける者たちである。というのも、ダニエルが王の「勅令」に従わなかったために獅子の穴に投げ込まれたとき、目的が変えられないように、王はその石に封印を施したからである。メディアとペルシャの法によれば、王の勅令もその封印の権威も変えることはできなかった。ダニエルは永遠のために封印された。王の封印が石に押され、戸は閉ざされた。戸は日曜法のとくに閉ざされ、その戸を開けることのできる者はだれもない。ちょうど1844年10月22日に戸が閉ざされたのと同じである。これは、預言に示された出来事だけでなく、物語の中で預言者が描かれるときに、彼を取り巻く状況をも適用して考えることの重要性を示す、簡単な例であった。

しかしこれはまた、同じ預言に対する二人の証人として、初め（ダニエル書）と終わり（ヨハネの黙示録）を併せて考えることの力を示す例証でもある。というのも、聖書的事実を確立するには二人の証人が求められるからである。予告された出来事と、その預言に関連して預言者たちが行った活動の描写とは、いずれも靈感によるものである。

聖書はすべて、神の靈感によって与えられたもので、教え、戒め、矯正、義にかなう訓練のために有益です。これは、神に属する人が完全な者となり、あらゆる良いわざのために十分に備えられるためです。テモテへの第二の手紙 3章16、17節

もし聖書に予告された出来事が世の終わりを描いているのなら、予告を受け取りそれを証しする際の預言者とその周囲の描写も、世の終わりの描写である。したがって、預言者の置かれた環境や行動が預言的に描かれるとき、その預言者は世の終わりにおける神の民の象徴となる。この理解を踏まえ、マラキ書のエリヤの予言の筋を黙示録十四章と十八章の筋と合わせて考えると、それらは皆、最後の警告メッセージの歴史を証ししているが、その証しは二重である。

そのメッセージは、神の民の外部に関わる予言された出来事から成っており、第二の証言は、そのメッセージを受け取り宣べ伝える際の預言者の体験から成っている。同一の歴史の外面と内面を表す二本の預言の系列という概念は、アドベンチズムの先駆者たちによって認識され、公の記録に残された。私の考えでは、先駆者たちによるこの適用の古典的な例は、彼らが、黙示録の七つの教会と七つの封印が、教会の内的歴史と外的歴史を

示す並行する歴史であると見なしたときに見られる。封印は外的歴史を、教会は内的歴史を表す。

マラキ書のエリヤのメッセージと、黙示録十四章および十八章は、黙示録一章で「イエス・キリストの黙示」とも呼ばれている同じ最後の警告メッセージを指し示している。第一章では、父なる神がそのメッセージをキリストに与え、キリストがそれをガブリエルに渡し、ガブリエルがヨハネに伝え、ヨハネがそれを諸教会に送った。エリヤのメッセージも、黙示録一章、十四章、十八章に表されているメッセージも、まったく同じメッセージである。

そして、預言者の霊は預言者に従う。神は混乱の神ではなく、平和の神である。これは聖徒たちの諸教会すべてにおいても同じである。コリント人への第一の手紙 14:32, 33.

それは常に同じメッセージです。というのも、「預言者たちは預言者たちに服従している」からです。その節で「subject」と訳されている語は、次の意味を持ちます。「従属させる；（再帰的には）従う。－ 服従のもとにある（従順である）、下に置く、～に服させる、（～に）従属する（させる）、（～に、～の下に）服従の状態にある（置かれる）、自ら～に従う。」すべての預言者は互いに一致し、互いに服従しています。さもないと、彼らの伝えたメッセージは混乱を引き起こすでしょう。

最後の警告のメッセージに関するすべての預言的な例証は、同じメッセージを伝えている。主のご計画は、十人の乙女のたとえで「賢い者」と見なされる人々、すなわちダニエル書の封印が解かれるときに「知識が増すこと」を「悟る」者としての「賢い者」と呼ばれる人々に関するものである。主の御心は、封印が解かれるとき、その特別なメッセージを「賢い者」が認識することである。その認識は、聖書自体の中で明確に示されている聖書研究の方法論を適用することによってもたらされる。その方法論は、イザヤ書二十八章に一致して、聖書の主題を扱うさまざまな預言の筋道を互いに並置し、正しい預言的出来事を確立するために行う過程を通して実行される。

本稿はここでいったん締めくくり、続きは次回の記事で述べますので、どうかご辛抱ください。